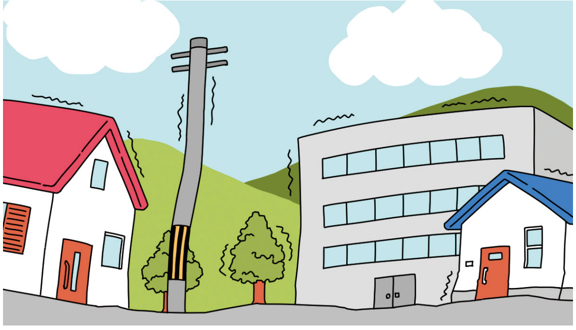
地震が起こったとき

もしも地震が起こったとき、命を守ることが最優先です！



地震は、いつ発生するかわかりません。
そのため、いつか地震が来るということを想定して、自宅の点検や安全対策をし、被害を最小限にすることが大切です。
また、自分や家族の命を守るため、どのような行動をとればよいのかを確認しておきましょう。

過去の地震を振り返る

平成30年（2018年）　大阪北部地震

6月18日午前7時58分、大阪府北部を震源とする強い地震が発生しました。
大阪市北区と枚方・高槻・茨木・箕面の各市で府内観測史上初となる震度6弱を観測し、本市として初めて災害救助法が適用されました。

枚方市では地域防災計画に基づき、全第1次避難所53カ所を自動開設するとともに市長を本部長とする災害対策本部を設置しました。この地震により、最大時で273人の方が避難され、住家の被害は7,000件以上となりました。

枚方市の主な被害状況

軽症者	23人
道路被害	93件
公園・緑地被害	18件
土砂崩れ・のり面崩壊	3件
倒　木	1件
河川被害	2件
水道被害	34件
下水道・水路被害	16件
ため池被害	4件

住家被害（り災証明書発行件数）

全　壊	1件
半　壊	12件
一部損壊	7,064件

緊急地震速報と地震の揺れ方

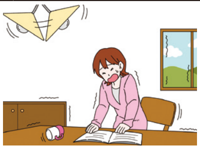
地震のとき、緊急地震速報で知らせます

気象庁では、強い揺れが到達する前に地震の発生をお知らせする緊急地震速報を提供しています。最大震度5弱以上の揺れが予想されるときに、震度4以上の地域に、強い揺れが来る数秒〜十数秒前にお知らせするものです。

テレビ・ラジオ ……… テレビやラジオを視聴しているときに、報知音とともに放送されます。
携帯電話・スマートフォン ……… 緊急地震速報を受信し、報知音で知らせます。

地震が起きても慌てずに行動できるよう、普段から地震発生時の行動をイメージしましょう

地震の揺れと被害想定

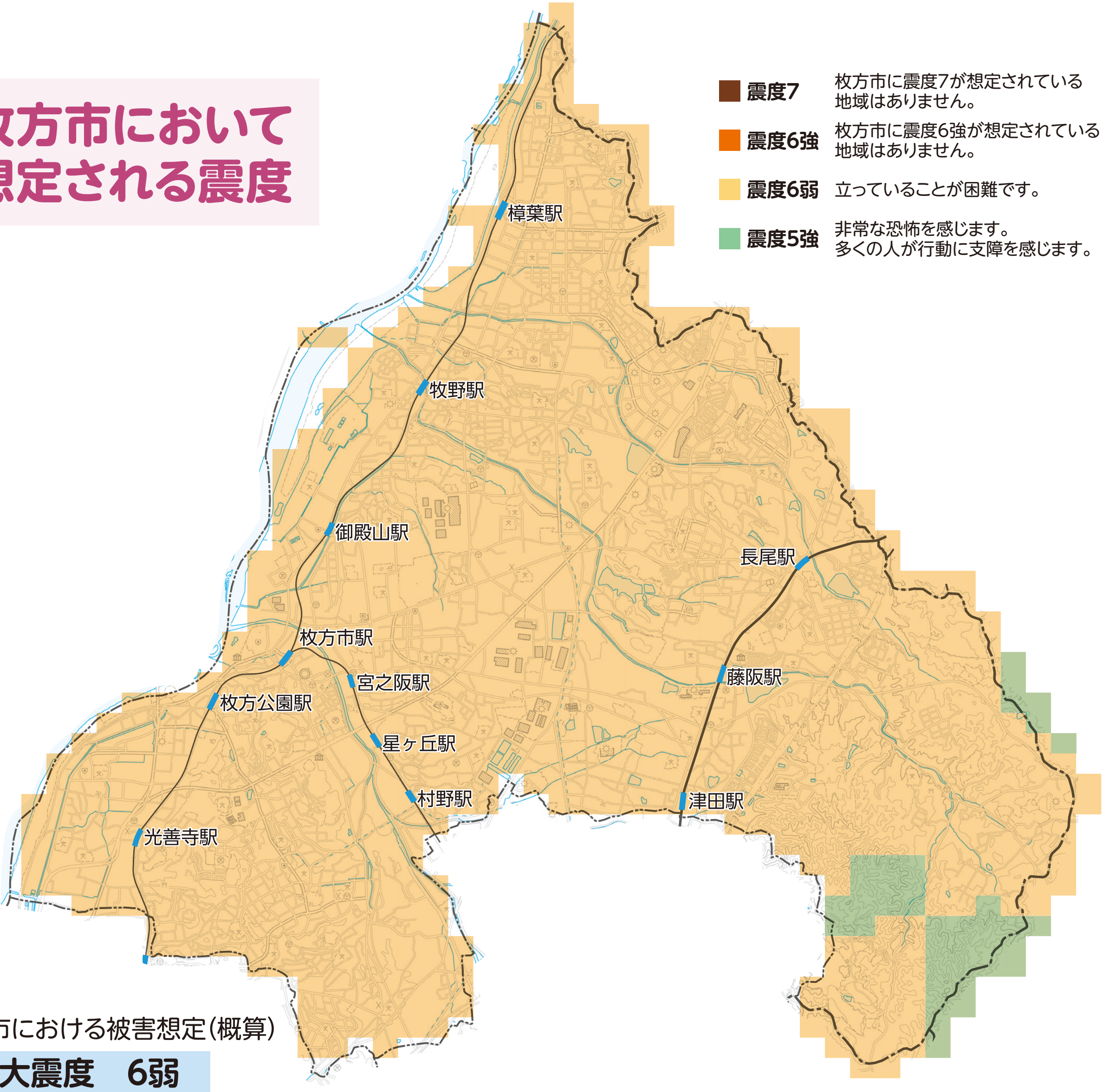
震度 0	人は揺れを感じない。	震度 5弱	大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 
震度 1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人もいる。	震度 5強	物につかまらないと歩くことが難しい。
震度 2	屋内で静かにしている人の多くが、揺れを感じる。	震度 6弱	壁のタイルや窓ガラスが壊れ、ドアが開かなくなることがある。
震度 3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。	震度 6強	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
震度 4	棚にある食器類が音を立て、座りの悪い置物が倒れることがある。	震度 7	耐震性の低い建物の中には、傾いたり、倒れたりするものが増える。

南海トラフ巨大地震

枚方市でも大きな被害が想定されています

（南海トラフ巨大地震の発生確率は、30年以内で70～80%とされています。）

枚方市において想定される震度



枚方市における被害想定（概算）

最大震度　6弱

項　目	被害想定
津波浸水面積	0.0ha
全壊棟数	約1,900棟
半壊棟数	約12,800棟

項　目	被害想定
死者数	約50人
負傷者数	約1,200人
最大避難者数	約34,100人

（平成25・26年度南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会（大阪府）公表の地震被害想定結果より）

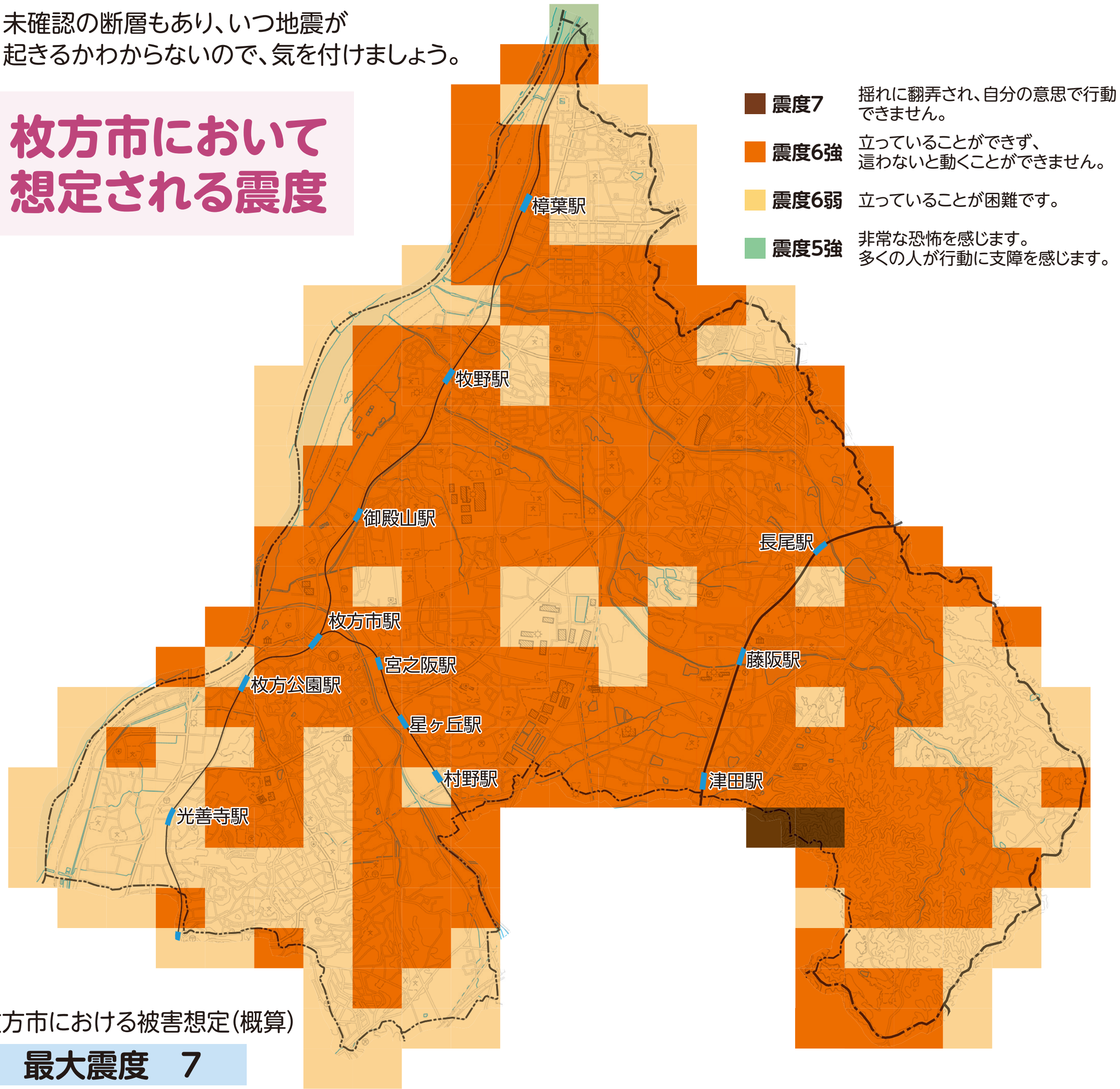
生駒断層帯による直下型地震

枚方市域の活断層を次ページで確認しておきましょう

(生駒断層帯地震の発生確率は、30年以内で最大0.2%とされています。)

※未確認の断層もあり、いつ地震が起きるかわからないので、気を付けましょう。

枚方市において想定される震度



枚方市における被害想定(概算)

最大震度 7

項目	被害想定
枚方市域の震度	5強 ～ 7
全壊棟数	約20,800棟
半壊棟数	約21,100棟

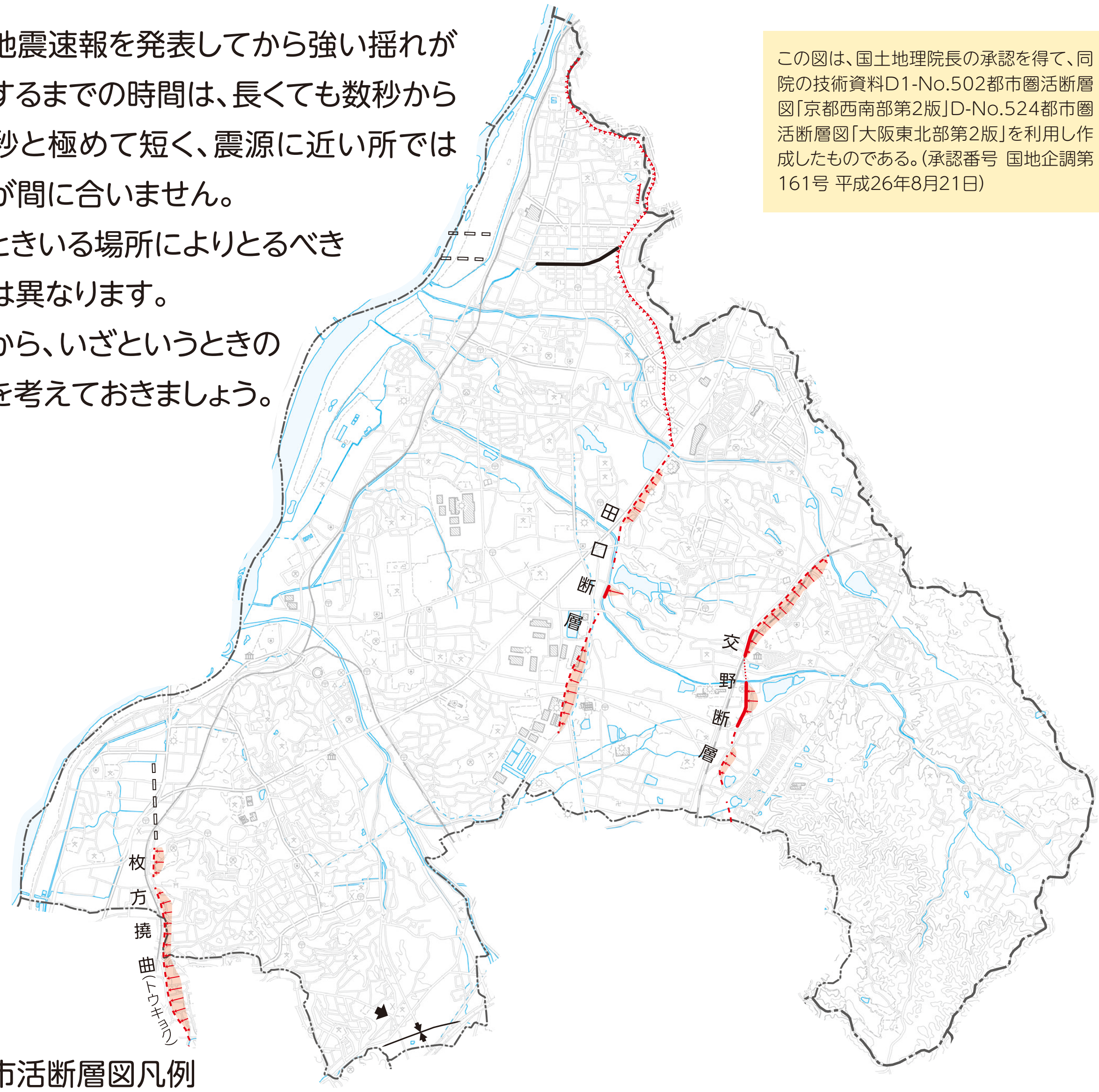
項目	被害想定
死者数	約370人
負傷者数	約5,100人
最大避難者数	約46,800人

(平成19年大阪府自然災害総合防災対策検討(地震被害想定)報告書公表より)

枚方市活断層図（生駒断層帯）

緊急地震速報を発表してから強い揺れが到達するまでの時間は、長くても数秒から数十秒と極めて短く、震源に近い所では速報が間に合いません。
そのときいる場所によりとるべき行動は異なります。
日頃から、いざというときの行動を考えておきましょう。

この図は、国土地理院長の承認を得て、同院の技術資料D1-No.502都市圏活断層図「京都西南部第2版」D-No.524都市圏活断層図「大阪東北部第2版」を利用し作成したものである。（承認番号 国地企調第161号 平成26年8月21日）



枚方市活断層図凡例

分類		定義	記号	分類		定義	記号
活断層	活断層	最近数十万年間に、概ね千年から数万年の周期で繰り返し動いてきた跡が地形に現れ、今後も活動を繰り返すと考えられる断層		推定活断層	推定活断層（地表）	地形的な特徴により活断層の存在が推定されるが、現時点では明確に特定できない活断層	
	活断層（位置やや不明確）	活断層のうち、活動の痕跡が侵食や人工的な要因等によって改変されているために、その位置が明確には特定できない部分の断層			推定活断層（地下）	新しい地層に覆われて、断層地形が地表で確認されていないが、既往のボーリングや物理探査によりその存在が推定された活断層	
	活断層（潜在部）	活断層のうち、最新の活動時以後の地層で覆われ、変異を示す地形が直接現れていない部分の断層		活褶曲	活褶曲	現在も続いている地殻変動によって生じている波状地形	
縦ずれ	縦ずれ（明確）	活断層の上下方向の変異の向き		活撓曲	活撓曲	活断層のうち、変異が軟らかい地層内で拡散し、地表には段差ではなく、たわみとして現れたもの	
	縦ずれ（位置やや不明確）	活断層（位置やや不明確）の上下方向の変位の向き		界線	地形面の傾動方向	地形面が、現在も続いている地殻変動によって傾いている場所	

ご自宅の安全点検（耐震診断）

耐震診断をしましょう

地震時の安全のためには自宅の耐震性を知ることが大切です。「誰でもできるわが家の耐震診断」を活用して、自己診断してみましょう。

「誰でもできるわが家の耐震診断」診断項目

- □ 1　建てた時期
- □ 2　過去の被災経験
- □ 3　増改築の実施
- □ 4　傷み具合や補修･改修
- □ 5　建物の平面の形
- □ 6　吹き抜けがあるか
- □ 7　1階と2階の壁面が一致するか
- □ 8　壁の配置のバランス
- □ 9　屋根葺材と壁の多さ
- □ 10 どのような基礎か

詳細は、ウェブサイトで確認してください。

出典:「誰でもできるわが家の耐震診断」㈶日本建築防災協会

枚方市の耐震診断補助制度

耐震診断に要する費用の一部を補助する制度です。補助制度の利用をお考えの方は、必ず耐震診断を行う前に住宅まちづくり課へご相談ください。

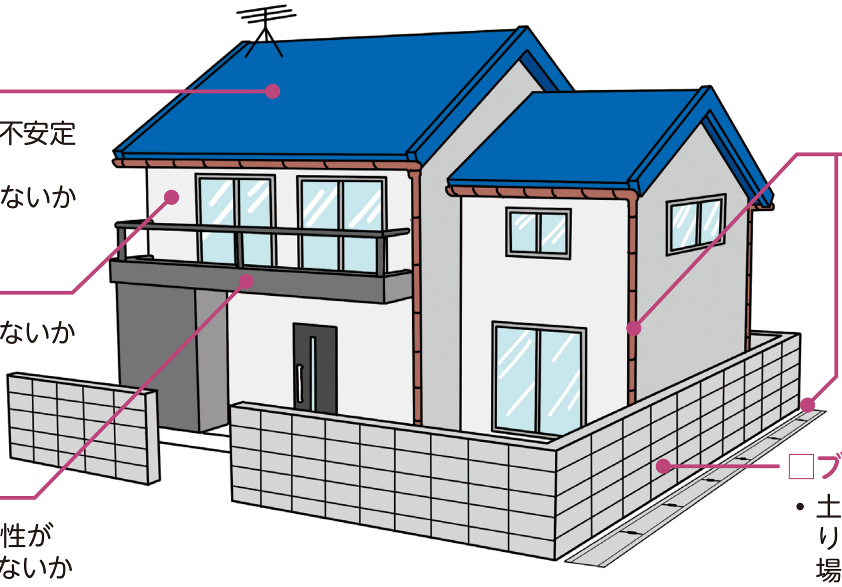
補助対象

昭和56年（1981年）5月31日以前に、原則として建築確認を受けて建てられた住宅（マンション、長屋住宅を含む）および特定既存耐震不適格建築物（病院、百貨店、事務所など多数の人が利用する施設）

詳しくは、枚方市都市整備部 住宅まちづくり課
☎ 072-841-1478　FAX 072-841-5101 へ
お問い合わせください。ホームページからもご確認いただけます。
https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000002411.html

ご自宅の安全点検（一戸建て）

被害を少なくするための点検をしましょう



□屋根
- アンテナが不安定ではないか
- 瓦の破損はないか

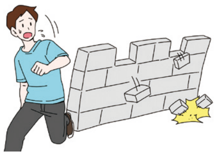
□外壁
- 壁に亀裂はないか

□ベランダ
- 落下の危険性があるものはないか

□雨どい・側溝
- ゴミの詰まりはないか
- 壊れていないか

□ブロック塀・門柱
- 土中に基礎がなかったり、鉄筋が入っていない場合は補強が必要です

枚方市では、道路等に面するブロック塀の倒壊による事故を防止するため、その除却費用の一部を補助します。



対象となる塀（すべてに該当するもの）

- ☑ 枚方市にあるもの
- ☑ 道路 、公園等に面しているもの
- ☑ 高さが 80cm 以上のもの
- ☑ 所定の点検方法による結果が不適合であるもの

補助額（最も少ない額）

- ☑ 15 万円（分譲マンションは別途ご相談ください）
- ☑ 除却工事に要した費用の額
- ☑ 補助対象ブロック塀の見付面積 (高さ×長さ) [㎡] × 1 万5千円

注意事項

- ☑ 受付期間内に予定数に達した際は 、受付を終了します。
- ☑ 塀の一部の除却、自分での除却作業は原則補助対象にはなりません。
- ☑ ブロック塀の除却を対象とした別の補助金と重複して申請することはできません。
- ☑ 新たにフェンス等の構造物を設置する場合、建築基準法等に適合するものにしてください。

申込方法

詳しくは、枚方市都市整備部 住宅まちづくり課 ☎ 072-841-1478　FAX 072-841-5101へお問い合わせください。ホームページからもご確認いただけます。

https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000023322.html

職員による現地調査（後日）のあと、申請書をご提出いただきます。※除却工事（補助対象工事）の契約（着手）後の申請はできません。

ご自宅の安全点検（マンション）

マンションで注意すること

マンションは、一戸建てに比べて地震に強いといわれています。
昭和56年（1981年）6月以降に建築確認を受けたマンションは、地震に強くできていて、壊れにくく、火災に強いといわれていますが、被害がないわけではありません。マンションで起こりうる被害を知っておきましょう。

エレベーター等

非常階段を使って避難することになります。非常照明が機能せず、階段に飛散したコンクリート片等や部材で避難経路がふさがってしまうこともあります。日頃から、避難経路や非常用設備を確認しておきましょう。
ライフラインは、停止することを前提としておきましょう。上層階にお住まいの方は、飲料水などの備蓄は多めにしておくと安心です。給水が止まったり、配管の無事が確認されるまで、水を流せません。非常用のトイレを準備しておくとよいでしょう。

長周期地震動（高層階の揺れ）

大きな地震が発生したときに、高層マンションでは長周期地震動というゆっくりとした大きな揺れを感じることがあります。 この揺れは震源から遠く離れている場所でも大きな揺れをもたらし、長い時間続くことが特徴です。

落下物に要注意

落下物は、重さ・鋭さ・落下距離によって、人に致命的な傷を負わせてしまいます。コンクリートやタイルが剥がれ落ちたり、固定が不十分な室外機などが落下してしまうおそれがあります。

階級1

- 室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。
- ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。

階級2

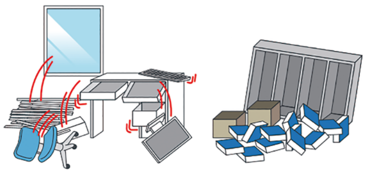
- 室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
- キャスター付きの家具類等がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。

階級3

- 立っていることが困難になる。
- キャスター付きの家具類等が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

階級4

- 立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。
- キャスター付きの家具類等が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。



出典:「長周期地震動階級表」気象庁

被害を少なくするための点検をしましょう

□通路や踊り場などの共有部分
逃げ道となる場所に、自転車等を置かない

□ベランダ
- 非常脱出口の使い方を確認する
- 非常脱出口の周りや上にものを置かない

□防災施設・消火設備
消火器や火災報知器、屋内消火栓などの位置や使い方を確認する

家の中の安全対策

家の中でも、家具の転倒や落下物から身を守る対策が大切です

直下型地震では、家具の転倒や落下物による負傷者が多数を占めています。地震の揺れによって家具が転倒しないように固定するなどの対策をしておきましょう。また、被害を最小限にするために、下記の「安全チェックシート」を参考に、家の中の危険箇所をチェックしてみましょう。

安全チェックシート（例）

【玄　関】

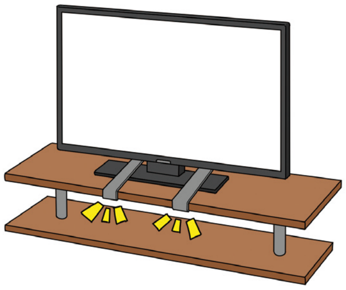
□安全に避難できるように、出入り口をふさぐものはない。

【リビング・ダイニング・キッチン】

□テレビはなるべく低い位置に設置し、固定している。

□食器棚や冷蔵庫の扉が開かないように、止め具をつけている。

□食器棚のガラスに飛散防止フィルムを貼っている。



【寝室や子供部屋】

□寝室に家具を置いていない。家具を置く場合は、寝ているところに倒れない位置に置いている。

□重いものが高いところにない。

□スリッパを置いている。

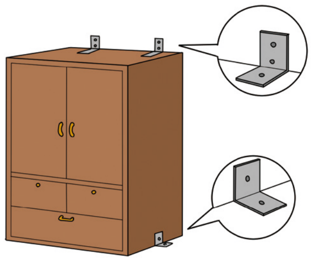
【家全体】

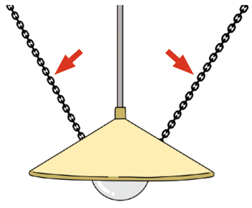
□家具などが転倒しても、ドアを開けられるように配置している。

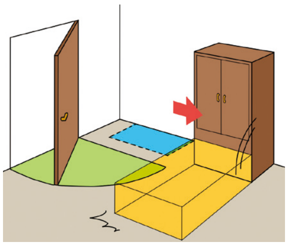
□窓ガラスに飛散防止フィルムを貼っている。

□吊り下げ式の照明器具を固定している。

□キャスター式の家具にはロックをかけるなど固定している。





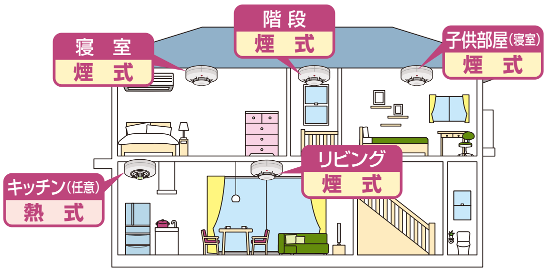


住宅火災への備えと初期消火方法

住宅火災を防ぐための対策をしましょう

住宅用火災警報器の設置と作動確認

火災により発生した煙や熱を自動的に感知し、警報音や音声で火災発生を知らせることで、初期消火や通報が早まり被害の軽減につながります。また、住宅用火災警報器がいざというときに作動するように、定期点検をしましょう。
（定期点検の目安は、月に1回。機器の交換は、概ね10年に1回が目安です。）



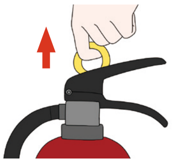
住宅用火災警報器の設置例

地震のあとに重要なことは、出火を止め延焼を食い止めることです

出火を確認したら、まずは落ち着いて、大きな声で火災を知らせるとともに助けを求めましょう。火が天井に達していないようであれば、初期消火を行ってください。ただし、危険を感じたらすぐに避難しましょう。

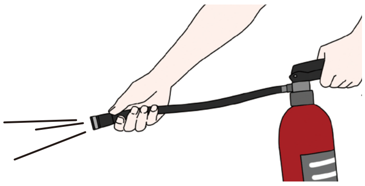
消火器の使い方

❶ 安全ピンを引き抜く



❷ ホースを外して火元に向ける

❸ レバーを強く握ると消火薬剤が噴射



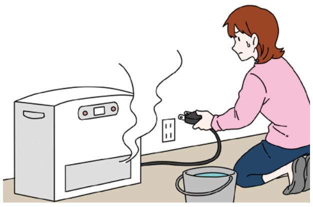
消火器がないときの初期消火方法（例）

てんぷら油

水をかけてはいけません。毛布や大きめのタオルをぬらして、火の手前からかぶせて酸素を遮断します。

電気製品

感電しないようにコンセントを抜いてから、水をかけます。



衣類

転げまわって火を消します。髪の毛に火が付いたら、タオルなどの布をかぶります。

カーテン・ふすま

まずは水をかけます。水がないときは、カーテンは引きちぎり、ふすまは倒して足で踏みます。

通電火災にご注意ください

災害時に停電が回復して通電したときに、水にぬれた家電製品などから火災が発生するおそれがあります。停電が続くときは、電気機器のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。
また、自宅等を離れるときはブレーカーを落として、通電火災を防ぎましょう。

地震保険に加入しましょう

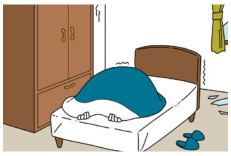
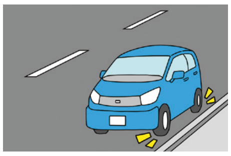
火災保険では、地震を原因とする火災や倒壊などは補償されませんが、地震保険では、地震や噴火、またはこれらによる家や家財の損害（火災・損壊・埋没・流失）が補償されます。いざというときに備え、ぜひ加入しておきましょう。また、保険料は、お住まいの地域（都道府県）と建物の構造によって決まります。

地震発生時の行動

大地震が発生したとき、まずはあなたの命を守る行動をとってください。
いつ、どんな場所にいても、できるだけ安全な場所に身を置いて、冷静に行動しましょう。

地震発生

緊急地震速報　　おおよそ数秒から数十秒後に揺れが来ます

自分がいる場所	命を守る行動（例）	
自　　宅	・揺れで動かない机やテーブルの下に身を隠す ・布団や枕で頭を守る ・ガラスや家具から離れる	
学校・オフィス	・本棚やロッカー、窓ガラスから離れる ・机やテーブルの下に身を隠す	
エレベーター	・すべての階のボタンを押して、停止した階で降りる ・閉じ込められたときは、非常ボタンを押して救助を求める	
駅や電車の中	・吊革や手すりにつかまる ・放り出されないように低い体勢をとる	
車の運転中	・道の左側に車を止める ・エンジンを切り、揺れが収まるのを待つ	
買い物中	・陳列棚やガラスケースなどからすばやく離れる ・あわてて出口に殺到せず、係員の指示に従う	
ビル街や住宅街	・ブロック塀や自動販売機などから離れる ・ガラスの破片や落下物に注意して頭をカバンなどで保護する	

⚠CAUTION（気をつけて）

揺れが収まっても、油断せず行動することを心がけましょう

火災などの二次災害に注意し、火の始末を徹底することが必要です。

1〜2分

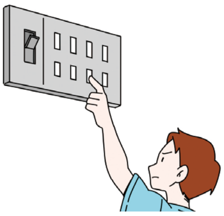
家族の安全確認
揺れが収まったら家族や近くにいる人の安否を確認する

火の元を確認する

スリッパや靴を履いて
ガラスなどの破片から足を守る

出口を確保する

ガスの元栓を閉める
電気のブレーカーを落とす



5〜10分後

正しい情報を得る
大きな地震の後は引き続きの揺れに注意

テレビやラジオなどで
正しい情報を確認する

自宅の周囲の様子を確認する

外出中の家族へ連絡して
安全を確認する
※電話がつながらない場合はメール等で

10分〜数時間後

状況に応じた対応
隣近所と協力する

隣近所に声をかけて
安全を確認する

自治会などで協力して
安全を確認する

家屋倒壊の危険が
あるときは避難する

強い余震が続くことがあります。油断せず、常に余震に備えて行動しましょう。